

## V 2014 (平成 26) 年度 「全学 FD 教員研修会」 実施報告

### 1. 実施概要

全学FD教員研修会は、全教員が一同に集まるFD研修会として2008（平成20）年度より実施している。今回の研修会では、講師に樋栄ひかる氏（Ena Communication Inc）を迎え、学生理解、傾聴力向上、プレゼンテーション技術向上、ファシリテーション技術の習得を目的に、グループワークを中心としたプログラムに取り組んだ。

■ 日 時：2015（平成 27）年 2 月 20 日(金) 10：30 ～ 17：30

■ 場 所：新ユージニア館 大講義室

■ 講 師：樋栄ひかる氏（Ena Communication Inc）

■ コーディネーター：FD 委員会（廣瀬委員長、吉野教授、鷲見教授、三好教授）

■ 目的と目標：学生理解、傾聴力向上、プレゼンテーション技術向上、ファシリテーションスキルを学ぶ。

■ 出席者数：

出席者	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	教員現員数	教員参加率	副学長	職員
	英語英文学科	人間文化学科						
41 名	7 名	8 名	14 名	12 名	66 名	62.1%	1 名	3 名

### 2. 現状と今後の課題

2013（平成 25）年度の全学研修会は、FD・点検評価委員会の企画・実施による「授業評価アンケート」結果の分析および教員によるテーマごとのグループディスカッションを行った。2014（平成 26）年度は、新たな試みとして外部講師を招き、主にアクティブラーニングを目的とした全学研修会を実施した。2013（平成 25）年度は午前 2 時間のみのみ行ったが、2014（平成 26）年度は午前 2 時間、午後 4 時間という長丁場で行った。教員の参加率は昨年度の 77.9%から今年度は 63.6%へ低下したが、これは例年 3 月初旬の教授会の開催日に行っていたのを今年度は講師の都合もあり 2 月下旬に設定したことも影響していると考えられる。また、事前に届け出のあった欠席者には大学コンソーシアム京都の FD フォーラムに参加を義務付けたことも今年度の新しい取り組みであった。大学コンソーシアム京都の研修会に参加した教員からは、出席したシンポジウムや分科会が興味深く、多くを学んだという意見が寄せられた。

研修はアイスブレイクから開始した。参加者は誕生月別に分かれ、誕生日順に大きな輪の形に座り、生まれ月ごとにその月に生まれたいと思わせるスピーチを行った。これによって場がなごんだだけでなく、学科の垣根をこえて交流したことにより、全体で研修にのぞむ雰囲気を整ったように感じた。その後、拍手まわしと同時拍手まわしによってスピーチとプレゼンテーションの違いを考察し、傾聴の大切さを実感した。午後は 4 人ごとの異なるグループに分かれ、共通点を探してグループ名を決め、チームビルディングの実践から始まった。各人が今年の抱負となる漢字を選び、発表を行い、それら漢字を組み合わせて四字熟語を作った。また、チーム内で、相手に見たいと思う映画と相手に読ませたいと思う本について発表を行ったり、紙飛行機を作成したりして facilitation や knowledge model について学んだ。

参加者のアンケート結果は、「大変有意義であった」30.3%、「有意義であった」54.5%、「あまり有意義でなかった」6.1%、「有意義でなかった」3.0%、「無回答」6.1%であり、おおむね良い結果

であったといえる。自由記述では、肯定的なものとして「楽しかった」「実用的であった」「講師がよかった」などの意見があった。対して否定的なものとしては、「高校生・大学生向けの内容であった」や「授業＝プレゼンでいいのか」といった旨の回答が見られた。全体的に多かったのは「研修時間が長すぎる」という意見であった。確かに長すぎて集中力が途切れてしまった面があったのは否めない。

来年度の研修会の計画に向けて、外部講師を招くかどうかも含め、アンケート結果の自由記述内容を冷静に分析し、内容がよりよいものになるよう工夫していきたい。集中できるような研修スケジュールを組めるよう計画していくことも求められる。最後に、本研修会に限らないが、義務付けられているFD研修会に参加自体を拒否する教員に対する対応もFD委員会として考えていかねばならないだろう。

文責：鷺見 朗子（人間文化学部人間文化学科 FD 委員）